

めざせ！最強の特定看護師！

杏林大学医学部附属杉並病院 主任 後藤香織

私の病院

はじめまして、杏林大学医学部附属杉並病院の後藤香織と申します。

東京都杉並区にある災害拠点病院であり、産科・小児科も有する地域に密着した総合病院です。杉並区は都心の区に隣接しており、杉並区だけでなく中野区、新宿区、渋谷区等他の区からの要請も引き受けています。救急は24時間体制で2次救急に対応しています。忙しい時は救急外来に救急車が来たすぐ後に、違う救急車が入って来ます。外来も、外来終了時間が終わっても診察が終わらないことも多々あります。病床は340床であり、毎日入院や退院が多く、病棟も目まぐるしく動いている病院です。



循環器内科研修中、指導医と

さっそく看護部長のもとへJADECOMのパンフレットを胸に抱え「特定看護師になりたいです!」と言いに行きました。「やってみるか!」と快く返事をしてくれた看護部長。特定看護師になりたいと決めてから応募するまで2週間の出来事でした。

それが私の特定看護師への道の第一歩でした。

研修生になる前の私

私は心不全看護が大好きで、循環器病棟ですっと働き、毎日大好きな心臓と向き合って、楽しく働いていました。心不全療養指導士1期生にもなりました。しかし、1つステップアップすると、またさらにステップアップしたくなる性格で、もっと何か勉強できることはないかなあ…私はピン!ときました。

何にピン!ときたか…心不全患者さんは他の疾患を多く持っていたり、他疾患を契機に容易に心不全が悪化し、全身状態をおびやかします。それなら、患者さんの全身状態を看れる看護師になりたい!とピン!ときたのです。そこで、たまたま見つけたのがJADECOM特定行為研修8期生募集要項でした。

研修生の私

当院での特定看護師1期生ということもあり、手探りで始まった研修でした。研修で一番感じたことは、臨床推論の力がないと特定行為も中途半端になるということでした。点滴や抗生剤の選択、A-LINEやA採血、利尿剤投与量の



指導医と担当患者についてカンファレンス



先輩から患者さんの状態について質問されて、指導しているところ



ポケットエコーでIVC測定中

調整等特定行為を行う時や、入院をとらせてもらった時に、臨床推論の力が試されたり、入院患者さんのカルテ記載や回診、医師とのカンファレンスも臨床推論につながり、毎日学びが多いと強く感じています。

本誌の執筆中のさなか、急変時DNARの患者さんに対して非侵襲的陽圧換気(NPPV)が必要とアセスメントしましたが、患者さんは拒み、非常に判断に悩みました。医師に相談して結局NPPVを装着、今も患者さんは集中治療室で闘っていますが、それが患者さんにとって良かったことかはわかりません。それだけ特定看護師という立場での業務は難しいこと、もっと臨床推論の力をつけなければと、自分を奮い立たせる良い症例ではありました。

今も闘っている患者さんが無事にNPPVがとれ一般病棟へ出られるよう、研修生としての治療方針の理解・臨床推論の向上を目指し、また、担当看護師として患者さんのところへ行く度に握手をして「タッチング」をしたり、マスクで話しぶらい中短い会話をして「言葉の手当」をしながら、医師とともに頑張っています。NPPVがなかなか外れない状態ですが、この記事が掲載される頃、患者さんは退院し、元の生活に戻っていることを願っています。

これからの私、こうなるといいな

私は、医者になりたい訳でも、手技だけでできる技術屋になりたい訳でもありません。患者さ

んの命を守ることができる看護師、医師がすぐに駆けつけられない時でも、研修で学んだ臨床推論や特定行為で、私が命の架け橋になれる特定看護師を目指しています。

ただ私はまだ、ただの研修生。そんな看護師になれるのに何年かかるだろう。JADECOM NDC 2期生の先輩に「自分は何もできないと思っているだろうけど、絶対に一人前になれるから」と言われたことがありましたが、今でも「本当になれるのかな?」としか思えません。ただ、知らない新人看護師に「後藤さん、いつも頑張っているなと応援しています」と言われたことがありました。他にも看護師から「後藤さん！相談が!」と言われたり「後藤さんで良かった!」と言われたりすることが増えてきました。その言葉はとても嬉しく、1つ1つの努力の積み重ねや小さな頑張りで、一人前の特定看護師になっていくのかなと感じている今日この頃です。

最強の特定看護師になれるといいな!!

※当院では特定看護師と呼称しています。



デールームから見える朝5時ごろの新宿副都心